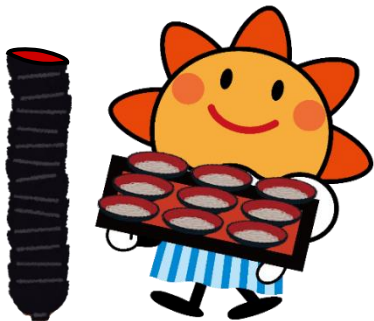


「防災気象情報の利活用について」

令和6年6月28日
盛岡地方気象台



「防災気象情報の利活用について」

- 1 線状降水帯の予測精度向上に向けた取り組み
(「線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ」の対象地域の絞り込み)
- 2 警戒レベル 1 : 「早期注意情報」
(段階的に発表される防災気象情報の最初の情報「早期注意情報」)
- 3 キキクル (危険度分布)
(避難情報等の対象範囲の判断を支援するため、危険度を面で表示 (メッシュ情報))
- 4 洪水警報の基準等の見直しについて
(毎年、洪水警報の基準等の見直しを実施)

1 線状降水帯の予測精度向上に向けた取り組み

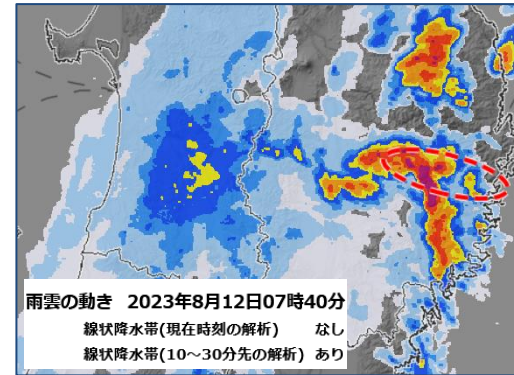
「線状降水帯」

線状降水帯が発生すると、大雨災害の危険度が急激に高まります。

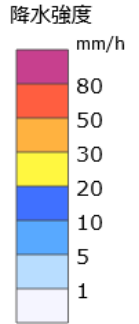
線状降水帯

次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をとまなう雨域

令和5年8月12日7:40～55



大雨災害発生の危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域 (現在時刻の解析)
大雨災害発生の危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域 (10～30分先の解析)



内陸（遠野市付近）

（※13 - 14日の岩泉の大雨では解析されず）

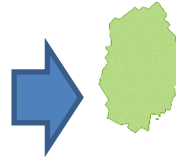
「線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ」の対象地域の絞り込み

従来

令和6年5月27日～

大雨に関する**岩手県**気象情報 第○号
○年○月○日○時○分 盛岡地方気象台発表
<見出し>
東北地方では、○日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。
<本文>
… (中略) …

大雨に関する**岩手県**気象情報 第○号
○年○月○日○時○分 盛岡地方気象台発表
<見出し>
岩手県では、○日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。
<本文>
… (中略) …



※従来は地方単位

※現在は県単位

気象庁では令和11年に向け、線状降水帯の予測精度の向上に取り組めます。3

2 警戒レベル1 : 「早期注意情報」 1 / 2

危険度の高まりに応じて段階的に発表される防災気象情報

気象状況	気象庁等の情報		市町村の対応		住民がとるべき行動	警戒レベル	
数十年に一度の大雨	大雨特別警報	キキル 災害切迫	氾濫発生情報	緊急安全確保 <small>※必ず発令される情報ではない</small>	命の危険 直ちに安全確保! ・すでに安全な避難ができます、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	5	
↑ 大雨の数時間～2時間程度前	土砂災害警戒情報	高潮警報	高潮特別警報	危険	氾濫危険情報	<警戒レベル4までに必ず避難!>	
	大雨警報 洪水警報	※大雨警報に切り替える可能性が高い 高潮警報に切り替える可能性が高い 注意報	警戒	氾濫警戒情報	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	4
	大雨警報に切り替える可能性が高い 注意報	高潮注意報	注意	氾濫注意情報	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	3
	大雨注意報 洪水注意報	高潮注意報	注意	氾濫注意情報	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制)	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	2
↑ 大雨の半日～数時間前	早期注意情報 (警報級の可能性)			第1次防災体制 (連絡要員を配置)	災害への心構えを高める	1	
↑ 大雨の数日～約1日前				・心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認			

レベル1

※ 夜間～翌日早朝に大雨警報・土砂災害警戒情報に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3（高齢者等避難）に相当します。

「避難情報に関するガイドライン」（内閣府）に基づき気象庁において作成

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/newstage.html>

「早期注意情報」：警報を発表する可能性の結論だけ[高][中]で簡潔に伝えます。4

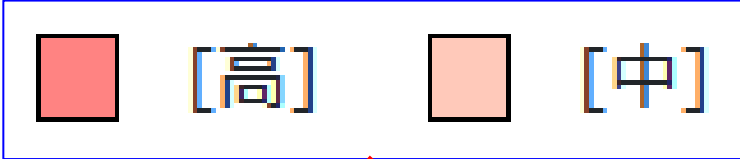
2 警戒レベル1 : 「早期注意情報」 2 / 2

「早期注意情報」気象庁HPでの表示

2024年06月02日11時 盛岡地方気象台 発表

沿岸北部では、3日までの期間内に、大雨警報を発生する可能性がある。

沿手県沿岸北部	2日		3日		4日	5日	6日	7日
	12-18	18-24	00-06	06-12 12-24				
警報級の可能性	-	-	-	[中]	[中]	-	-	-
大雨								
1時間最大	20	15以下	15以下	30	30			
3時間最大	30	25以下	25以下	45	45			
24時間最大	100から150							



岩手県沿岸北部の早期注意情報（警報級の可能性）

2024年06月02日11時 盛岡地方気象台 発表

沿岸北部では、3日までの期間内に、大雨警報を発生する可能性がある。

岩手県沿岸北部		2日		3日		4日	5日	6日	7日
		12-18	18-24	00-06	06-12 12-24				
	警報級の可能性	-	-	-	[中]	[中]	-	-	-
大雨	1時間最大	20	15以下	15以下	30	30			
	3時間最大	30	25以下	25以下	45	45			
	24時間最大	100から150							

[高] : 警報を発生するような現象発生の可能性が高い状況です。警報発生中も[高]表示になります。

[中] : [高]ほど可能性は高くありませんが、命に危険を及ぼすような警報級の現象となりうることを表しています。

R5実績（全国） 大雨[高] 17時予報の早期注意情報の翌日の適中率 → 50.8%
 ※ 60%以上の適中率を目標としております。

まず「早期注意情報」をご確認して、災害への心構えを高める参考にしてください。 5

4 洪水警報の基準等の見直しについて

毎年、洪水警報の基準等の見直しを実施

災害資料の収集整理

大雨事例の整理

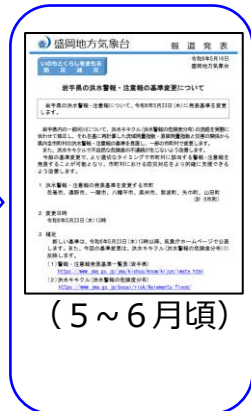
基準値案の作成

基準値案の評価

基準案

新基準の適用

自治体説明会などで周知
(3月頃)



「水害統計」等をもとに過去約30年分の災害資料を整理

調査期間における毎時の表面雨量指数と流域雨量指数を計算
一雨ごとに災害と指数の値をとりまとめ整理

統計処理（コストロモデル）により、基準値案を作成
できるだけ少ない基準超過頻度で、多く対象災害を捕捉できるような基準値案を算出

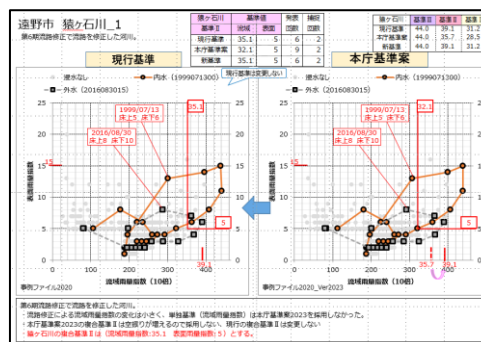
災害捕捉率や適中率といった統計評価をもとに基準値案の妥当性を確認
基準値の妥当性は**定期的に確認評価**

計算モデル内流路の追加・修正

流路変化による再評価



(早瀬川・来内川の猿ヶ石川合流地点)



(災害の捕捉率、空振り率などを検討)

気象庁全体で1年かけ見直し

来年度に向けて、県・各市町村の担当者さまに改めてご説明します。

ご清聴ありがとうございました。

